

## 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

製品名 : MaxFactory 10W-30 SL  
 製品コード : 4977655182411  
 会社名 : 日本オイルサービス株式会社  
 住所 (本社) : 〒196-0031 東京都昭島市福島町 3-2-20  
 担当部門 : 品質管理部  
 電話番号 : 042-542-8861  
 F A X 番号 : 042-542-8374  
 作成日 : 2018年4月1日  
 改訂日 :  
 推奨用途及び使用上の制限 : 4サイクルエンジン油

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性 : 分類基準に該当しない  
 健康に対する有害性 : 分類基準に該当しない  
 環境に対する有害性 : 分類基準に該当しない

## GHSラベル要素

シンボル : なし  
 注意喚起語 : なし  
 危険有害性情報 : なし  
 注意書き  
 【安全対策】 : なし  
 【応急措置】 : なし  
 【保管】 : なし  
 【廃棄】 : なし

※GHS分類による上記注意書きに記載がない場合でも、以降の情報を参考に安全対策/応急措置/保管/廃棄に対して十分な配慮を行ってください。

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物  
 化学名 : 潤滑油基油及び添加剤の混合物  
 成分及び含有量

成分	Cas No.	含有量 (mass%)
石油系炭化水素	非開示	68-78
石油系炭化水素	非開示	7-17
添加剤	(混合物)	10-20

化学特性 (化学式) : 特定できない  
 危険有害成分  
 毒物及び劇物取締法 : 該当しない  
 化管法 (P R T R法) : 該当しない  
 労働安全衛生法

物質名	政令番号	含有量 (mass %)
鉱油	表示対象物法 57 条政令第 18 条 第 1 号 別表 9 の 168 号	89-99

## 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、気分が悪い時は直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼水で洗う。  
汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
- 目に入った場合 : 清浄な水で数分間注意深く洗う。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。  
その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。  
口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

## 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災の拡大を引き起こすことがある。
- 特有の危険有害性 : 火災によっては、刺激性のガスが発生することがある。
- 特定の消化方法 : 火元への燃焼源を絶つ。  
周囲の設備等に散水して冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、風上から保護具を着用して行う。皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。  
必要時は適切な空気呼吸器と防護服を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業の際には、保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 土、砂、砂袋その他適切な方法で漏洩の広がりを防ぎ、側溝、下水道、河川へ流出しないよう注意する。  
海上では、漏洩の拡大を防ぐため、オイルフェンスを張り、吸収マット又は適切な資材に吸収させる。
- 封じ込め及び浄化の方法及び資材 : 危険領域から人を退避させる。  
危険領域にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。  
少量流出の場合、漏洩物を土、砂、砂袋、ウエスその他適切な物に吸収させ回収する。  
大量流出の場合、盛土で囲み漏洩の広がりを防ぎ、可能な限り空容器に回収する。
- 二次災害の防止策 : 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。  
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。  
漏洩物を完全に除去し、漏洩場所と周辺の換気及び浄化を行う。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

- 取り扱い
- 技術的対策 : 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。  
火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。  
必要に応じ、保護具を着用する。  
容器から取り出す時はポンプなどを使用する。細管を用いて口で吸

換気・排気対策	:	い上げない。飲み込まない。 ミストが発生する時は、呼吸器具を使用してミストを吸入しない。 屋内での取り扱い時は適切な換気下で行う。 蒸気、ミストが拡散する場合は密閉系で、局所排気システムその他適切な装置を設置する。
注意事項	:	取り扱い後は手と顔をよく洗う。 容器開封時は手の怪我を防ぐため手袋を着用する。
保管	:	容器を倒したり、落としたり、ショックを与えたり、引きずったりしない。
保管条件	:	直射日光を避け、涼しく換気され、乾燥した場所に保管する。 発火源の可能性のあるもの、高温物体を避ける。 使用後は容器を密栓し、ゴミ、水分の混入を防ぐ。
注意事項	:	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。 空容器は可燃性の製品残留物を含んでいる可能性がある。洗浄前に溶接、ハンダ付け、穴あけ、切断等してはならない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	:	ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度	:	規定なし (作業環境評価基準：労働省告示第26号、平成7年3月27日)
許容濃度	:	日本産業衛生学会 (2010年度版) : 時間荷重平均 3mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト) ACGIH (2010年度版) : 時間荷重平均 5mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト)
保護器材		
呼吸器用保護具	:	通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク (有機ガス用) を着用する。
手の保護具	:	長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
眼の保護具	:	飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	:	長期間にわたり、繰り返し取扱う場合には耐油性の長袖作業着を着用する。
衛生対策	:	汚れた衣服は脱ぎ、最使用する場合はよく洗う。 取り扱い後は手を十分に洗う。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観		
物理的状态	:	液体
形状	:	粘性流体
色	:	褐色透明
臭気	:	僅かな臭気
密度(15℃)	:	0.88 g/cm <sup>3</sup> JIS K 2249
引火点	:	230 以上 °C JIS K 2265-4 (COC)
動粘度 (40℃)	:	71 mm <sup>2</sup> /s JIS K 2283
(100℃)	:	11 mm <sup>2</sup> /s JIS K 2283
流動点	:	-40.0 以下 °C JIS K 2269
燃焼の又は爆発範囲 (推定値)	:	爆発限界 (1-7%)
溶解性	:	水に不溶

**10. 安定性及び反応性**

化学的安定性	: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: 混触危険物質との接触。 長時間の加熱、裸火、着火源。
混触危険物質	: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物	: 燃焼時、一酸化炭素等が生成される可能性がある。

**11. 有害性情報**

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

**製品**

混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。

**成分 (石油系炭化水素)**

急性毒性 (経口)	: ラット LD50 5000mg/kg 以上
急性毒性 (経皮)	: ラット LD50 5000mg/kg 以上
急性毒性 (吸入)	: ラット吸入(ミスト) LC50(4h) 5mg/L 以上
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	: ウサギによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。
呼吸器感作性	: 分類されない。
皮膚感作性	: モルモットを用いた複数の試験 (ビューラーテスト) において、いずれも感作性なしとの結果が得られている。
生殖細胞変異原性	: AMES 試験において Mutagenicity Index (MI) 値が 0.0 との報告がある。 広範囲な変異原性試験 (in vivo 及び in vitro) が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。
発がん性	: IARC では、高度精製油はグループ 3(人に対する発がん性について分類できない) に分類され、ACGIH の提案もほぼ同様の分類と言える。EU による評価では、発がん性物質としての分類は適用される必要はない。 各種動物への皮膚暴露試験から得られた知見により発がん性はなしと判断されている。
生殖毒性	: ラットにおける複数の発育毒性および生殖毒性試験において、発育毒性および生殖毒性を示す結果は得られなかった。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 急性試験による各種特定臓器への単回暴露毒性は認められていない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 経皮及び吸入投与による 4 週間から 2 年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。
吸引性呼吸器有害性	: 40°C の動粘性率が 20.5 mm <sup>2</sup> /s 以下の炭化水素に該当しないため分類されない。

**成分 (添加剤)**

添加剤パッケージ (製品中の含有量 ; 6-9 mass % )

急性毒性 (経口)	: 摂取により、胃腸の炎症および下痢を起こすことがある。 (添加剤パッケージに含まれる成分の情報)
鉱油 (製品中の含有量 ; 2.2-4.5 mass % )	: LD50 経口ラット >5000 mg/kg 亜鉛ジアルキルジチオホスフェート

	( 製品中の含有量 ; 0.4-0.8 mass % ) LD50 経口ラット 3100 mg/kg Alkaryl amine ( 製品中の含有量 ; 0.4-0.8 mass % ) LD50 経口ラット >5000 mg/kg Calcium long-chain alkaryl sulfonate LD50 経口ラット >5000 mg/kg Polyolefin LD50 経口ラット >10000 mg/kg Long-chain alkyl ester LD50 経口ラット >2500 mg/kg
急性毒性 (経皮)	: 混合物に繰り返してまたは長期にわたり接触すると皮脂の脱脂を引き起こし、その結果として非アレルギー性接触皮膚炎と経皮的な吸収を招くおそれがある。 (添加剤パッケージに含まれる成分の情報) 鉱油 ( 製品中の含有量 ; 2.2-4.5 mass % ) LD50 皮膚ウサギ >5000 mg/kg 亜鉛ジアルキルジチオホスフェート ( 製品中の含有量 ; 0.4-0.8 mass % ) LD50 皮膚ラット >2000 mg/kg Calcium long-chain alkaryl sulfonate LD50 皮膚ウサギ >2000 mg/kg Polyolefin LD50 皮膚ウサギ >2000 mg/kg Long-chain alkyl ester LD50 皮膚ウサギ >2500 mg/kg
急性毒性 (吸入)	: 加熱によって生じる蒸気、気化物質を吸い込むと呼吸器に刺激を与える可能性がある。 (添加剤パッケージに含まれる成分の情報) 鉱油 ( 製品中の含有量 ; 0.4-0.8 mass % ) LC50 吸入した場合 蒸気 ラット >2.18 mg/14 時間 Calcium long-chain alkaryl sulfonate LC50 吸入した場合 蒸気 ラット >1.9 mg/14 時間 Polyolefin LC50 吸入した場合 蒸気 ラット >19171 mg/m <sup>3</sup> 4 時間
その他の情報	: データなし。

## 12. 環境影響情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

製品

混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。

成分 (石油系炭化水素)

生態毒性

急性毒性

- : 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。  
魚類 (ファットヘッドミノー 96 時間) LL50 100mg/L 以上  
甲殻類 (オオミジンコ 48 時間) EL50/NOEL 10,000mg/L 以上  
藻類 (セレナストルム) NOEL 100mg/L 以上  
難水溶性のため上記試験においては調整された WAF (水適応性画分) を試料として使用している。  
上記試験結果から水生環境急性有害性なしと判断する。

慢性毒性

- : 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。

	魚類（ファットヘッドミノール 14日間） NOEL 100mg/L 以上
	甲殻類（オオミジンコ 21日間） NOEL 10mg/L 以上
	微生物の発光試験（4日間）による発光の抑制は確認されなかった。 難水溶性のため、上記試験においては調整された WAF（水適応性画分）を試料として使用している。
	（水適応性画分）を試料として使用している。 上記試験結果から水生環境慢性有害性なしと判断する。
残留性・分解性	: 生分解試験結果は 31%（28日間）であることから、本質的生分解性を有するが、易生分解性ではないと判断する。
生体蓄積性	: 有用な情報なし。
土壤中の移動性	: 類似基油の log KOC は 3 以上と推測され、地表で漏出した油は土壌に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。
他の有害影響	: 微生物の発光試験（4日間）による発光の抑制は確認されなかった。
成分（添加剤）	
	添加剤パッケージ（製品中の含有量；6-9 mass %）
環境有害性	: 水生環境中で長期の悪影響を与えることがある。（計算に基づく）
環境に与える影響	: 環境中に残留する可能性のある成分を含有する。

### 1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法	: 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。投棄禁止。 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
------	--

### 1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	: 国連の分類基準に該当しない。
国内規制	
	下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規則に従った容器、積載方法により輸送する。
陸上輸送	
消 防 法	: 危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ（非水溶性）
容 器	: 危険物の規制に関する規則別表第3の2に定めた適合品を使用する。 （注）容器は、危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを確認すること。
容器表示	: 一 危険物の品名 第4石油類 危険等級Ⅲ 潤滑油 二 数量 三 火気厳禁 表示対象物（労働安全衛生法）
海上輸送	
船舶安全法	: 非危険物（個別運送及びバラ積み運送に於いて）
航空輸送	
航空法	: 非危険物
輸送の特定の安全対策及び条件	: 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

## 15. 適用法令

### 国内法規と規則

消防法	:	危険物 第4類 引火性液体 第4石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)
労働安全衛生法	:	表示対象物
化管法 (PRTR 法)	:	非該当
水質汚濁防止法	:	油分排出規制
下水道法	:	鉱油類排出規制
海洋汚染防止法	:	油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	:	産業廃棄物規制

---

## 16. その他の情報

### (引用文献)

化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 改訂5版 (2013年)

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS 関連情報

安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報」

その他文献調査によって得られた情報

---

安全データシートは、提供した製品の安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものです。取扱者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取り扱いの実態に合わせた処置を講ずることが必要であり、これを理解した上で活用してください。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。